

# ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 108 9月号

2014年9月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469

新宮図書館 TEL(0791)75-3332

揖保川図書館 TEL(0791)72-7666

御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、  
左のQRコードから  
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

## 読書と私 No.100

### 「思いがけないものと出会う場所」

龍野町 窪田 憲龍

私の自宅は龍野図書館の隣にある。私設図書館とも言えるほど絶好の条件である。しかし、本好きであるがゆえに興味のある本はなるべく買うようにしていた。ある部分だけが必要な本でも、「あとで役に立つかも」と1冊買ってしまふ。そんなことだから、本屋に行くと目的以外にもう2冊3冊とついつい買いすぎてしまうことしばしばである。すると部屋が本であふれ出す。泣く泣くりサイクルに送り出した本が数百冊。「ああ、あの本の1割でも頭に残っていたら…」とうらめしく思いながら見送った。



その作業中に気づいたことがある。以前はタイトルをみて手に取りパラパラとページをめくり「おもしろそう」とワクワクしながら選んでいたが、今ではその時の目的にあったものへ一直線。現在の私の懐具合からすると致し方ないことであるが、行動がインターネット的になっているようだ。知りたいことを寄り道なしで検索してコピーで一件落着。電子ブックでは、途中で投げ出した読みかけの本とは永遠におさらばである。

あれ？本ってそんなものだったっけ？

調べなければならないこと知りたいことが増えたおかげで、私の財布は追いつかなくなった。「そうだ！隣に図書館があるではないか」いまや図書館は本屋に取って代わった。目的にあう本を探し出すのはもちろんだが、私が思わなかったものに遇ってしまう場所となった。またそういう時間を静かに過ごせる場所となった。

最近は個性的な図書館が増えてきたという。人集めとしての個性ではなく、本との時間と空間をいろいろな形で楽しめる場所になってきたということだろうか。この図書館も変化をしつつそういう場所であり続けて欲しいと願っている。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『カタツムリが食べる音』 エリザベス・トーヴァ・ベイリー 著 飛鳥新社



この本の主役は、学名「ガストロポッド」と呼ばれる腹足類のうちの1種、小さなカタツムリである。

ある時、著者である私はヨーロッパへの小旅行で、謎のウィルスに侵され、深刻な神経症状を発症する。

難病に苦しむ私が療養する部屋に偶然にやってきた1匹のカタツムリ。深夜、眠れない私が聞いた、カタツムリが食べる小さな音は、絶望の中にいた私に生きる希望の灯をともし始まりだった。ベッドの上からみえる限られた視界の中で、カタツムリを観察する日々が始まる。昼間は殻に閉じこもり、夜になるとゆったりと探索に出かける様子は、ときに孤独と絶望で利他的になる私の思考を静かにやすらかにしてくれる。食欲旺盛にマッシュルームを食べ、優雅に身づくろいをし、殻のなかで

眠るカタツムリ。同じ時間を過ごすうち、次第に私はカタツムリをあの子と呼び、地上で共生する仲間とを感じるようになる。カタツムリの祖先は、陸地の乾いた生活環境に耐えて生き残るため、ねばねばした粘液で、体の表面をおおってきた。粘液の用途は、移動、自衛、治癒、交合、卵の保護と多岐にわたるが、驚くことにその粘液でこわれた殻も見事に修復してしまう。歯の数は、2640本。大触覚と小触覚には、嗅覚と味覚が備わっていて、どの器官も再生可能なのだ。環境の変化に順応して暮すちっぽけなカタツムリを観察するうちに、私は次第に地球上に共に生きる生物の進化に思いを馳せ、生きる希望と勇気をみいだしていく。

この本は、1匹のカタツムリに出会い観察する日々を得た驚きの発見と共感の記録なのである。  
(御津図書館 廣瀬)

**トピックス** おおうえういち 郷土の博物学者 大上宇市をご存知ですか？

大上宇市は慶応元年（1865年）8月、篠首村（現たつの市新宮町篠首）に生まれました。小さい頃から体が弱く、博物学に興味を持ったきっかけも、弱い体を癒すための薬草採取からでした。小学校を中退した後は、村内外を問わず人から本を借りて写本し、独学で勉強しました。



明治22年（1889年）には『本草綱目』全52巻の漢書を購入し、本格的な薬草の研究を始めます。1日40キロ以上歩く採取旅行を続けるなど、宇市の博物学に対する情熱は底知れぬもので、当時の日本を代表する博物学者とも交流がありました。幻の木となっていた「コヤスノキ」（国内では播磨西部と岡山東部にのみ見られるトベラ科の珍しい植物）の発見が牧野富太郎によって世界中に発表されると、学界でも宇市の名は注目され始めます。揖保郡長から表彰を受け、農村の貧窮を救うための農業技術や知識が認められて、篠首村総代にも選ばれました。学歴を重視する学界では、表に出ることはありませんでしたが、研究者達はその足跡に敬意を払い、礼を尽くしています。

77歳で亡くなり、自宅には膨大な調査記録や目録などの資料が残されていました。

**大上宇市と冬虫夏草**



宇市による冬虫夏草に関する研究の写真パネルや、冬虫夏草の標本を新宮図書館で展示しています。

大上宇市についての書籍もありますので、ぜひ、この機会にご覧ください。

※展示は9月29日(月)まで

## おすすめする子どもの本・100

### 『ペニーさん』 マリー・ホール・エッツ 作 徳間書店

ペニーさんは、ウマのリンピー、メウシのムールー、ヤギ、ブタ、子ヒツジ、メンドリ、オンドリという大家族で暮らしていました。どの動物もペニーさんに甘えて働こうとしませんでした。

ある日、ペニーさんが工場へ働きに行くと、動物たちはおとなりさんの畑に入り込み、好きな野菜を食べはじめました。イチゴ、キャベツ、レタス、やわらかいトウモロコシの茎まで食べました。おとなりさんはかんかに怒って、損害の弁償として動物たちを引き渡すか、おとなりさんの畑仕事をするかどちらかだと言いました。

ペニーさんが畑仕事をするには工場を辞めるしかなく、それでは大家族を養っていくことができません。動物たちは自分たちで何とかしなければと考え始めます。リンピーはすきで畑を耕すことを、ムールーはたっぷりミルクを出すために食べ物をしっかりかむことを、他の動物たちも石拾いや

ミミズ集めなど、できる仕事を始めました。

次の朝、ペニーさんはメウシのミルクがたっぷり出ていることや夜中に畑がすき返されているのに驚きましたが、動物たちの仕事とは気づきません。魔法使いか妖精が弁償の仕事を全部してくれたと思っていたある夜、雷の光で動物たちが働く姿が浮かび上がって、ペニーさんは驚き、大喜びしました。

ペニーさんと動物たちが互いを大切に思い、危機を乗り切る結末は嬉しく、温かいものが残ります。読んでもらえば6歳くらいから。  
(新宮図書館 藤川)

---

### 『みしのたくかにと』 松岡 享子 作 こぐま社

料理好きなおばさんが、一粒の種を見つけ、庭にまきました。何ができるかわからなかったので「あさがおかもしれない すいかかもしれない とにかくたのしみ」と立札をしました。けれどもできたのは、かぼちゃでした。

さて、この国の王子は大変物知りでしたが、城の外の子供達のかたちは知りませんでした。ある時、王様とお妃様が1ヶ月、城を留守にすることになり、大臣達は王子がより勉強するように、より健康であるようにと言いつかります。しかし、王子は激しくなった勉強にくたびれ、顔も青白くな

ってきました。

そんな時に城の外に出た王子は、おばさんの庭の立札を見つけました。王子は、その立札を反対から読み、その不思議な言葉に興味を持ち、「みしのたくかにと」が食べたいといいました。それを聞きつけたおばさんはかぼちゃを城に持っていき、食べ方を説明します。

それは、外に出て、ピクニックをしながら大勢の同じ年の子と分けて食べないといけない、というものでした。みんなで「みしのたくかにと」を食べた王子は、見違えるほど元気になりました。

おばさんが、王子にとって本当に必要なものを見抜き、機転のきいたかぼちゃの食べ方を説明する所は楽しくてわくわくします。そして物語の最後、王子の成長を見たおばさんの言葉に心があたたまります。6歳くらいから。  
(揖保川図書館 竹内)



# 各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	9月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	1～3歳児、保護者 ----- 第1・第2土曜日(11時～11時20分)	6日・13日 『いもむしごーろごろ』他
	子どもの本を読む会	一般 ----- 第2木曜日(10時～11時30分)	11日 『赤と黒』スタンダードル 著
	読書会	一般 ----- 第2金曜日(10時～11時30分)	12日 『嵐』島崎 藤村 著
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者 ----- 第2・4月曜日、第3日曜日(11時～11時20分)	8日・14日・22日 『おつきさまこんばんは』他
	■おはなしのじかん	5歳児～ ----- 土曜日(11時～11時30分)	6日・13日・20日・27日 『しごとをと리카えたおやじさん』他
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者 ----- 第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	13日・20日 『たからさがし』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 ----- 第2・第3土曜日(11時～11時30分)	13日・20日 「ランパンパン」他
	読書会	一般 ----- 第3金曜日(10時～12時)	19日 『たくさんのお母さん』今江 祥智 著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	0歳児～、保護者 ----- 第2・第3日曜日(11時～11時20分)	14日・21日 『おやすみなさい おつきさま』他
	読書会	一般 ----- 第2火曜日(13時30分～15時30分)	9日 『春を背負って』笹本 稜平 著
	古文書を読む会	一般 ----- 第2土曜日(13時30分～15時30分)	13日 古文書の解説